

# 一般社団法人川崎市観光協会 平成30年度事業報告

平成30（2018）年は明治維新から数えて150年を迎え、また、訪日外国人が毎年、右肩上がり増加傾向にあるなど、観光需要が大いに期待される年でありました。

この1年間、国内では大きな自然災害や天候不順が各地を見舞い、国民の国内旅行や旅行消費が低迷を続けたなか、日本政府観光局の発表によると訪日外客数は過去最高の3,119万人を超え、旅行消費総額も過去最高の4兆5,000万円を記録しました。訪日外客数としては、平成元年の283万5千人から、30年間で約1.1倍になっており、最近ではリピーターも増えているとのこと。

これまでも外国人観光客が集中する東京、大阪、京都、沖縄などとともに、旅行中の「モノ消費」から「コト消費」へ関心が移り、温泉やスキー、農業体験など地方への人気が高まり、多くの外国人旅行者が訪れていると言われています。

政府は、「観光は我が国の力強い経済を取り戻すための極めて重要な成長分野」として、訪日観光の振興、国内旅行の振興ともに重要であるとし、地方・地域が一丸となって広く観光客を呼び込み、活気にあふれた地域社会を築いていくことが不可欠であるとしてきた効果が表れていると思われま。

川崎市も、平成28（2016）年2月公表の「新・観光振興プラン」において「観光は産業振興の重要な施策」として、民間活力による観光振興により「賑わいのある、元気な街」を取り戻すとしてきました。

こうしたなか、平成30年度において当協会は、多摩川花火大会や産業観光など川崎市行政とともに事業を推進し、また、各地区観光協会が行う観光事業への連携・協力、各種団体などが行う街歩きやイベント等の事業実施に対する支援などにより集客の拡大を図りました。さらに、観光に関わる関係団体や民間事業者との連携により、「観光都市かわさき」の進展に向け、各種の施策を推進しました。

## I 各種の観光事業を推進する。

### 1 川崎市制記念多摩川花火大会の開催

川崎市が県下3番目の市に移行したことを記念し、川崎の夏の風物詩として定着していました「川崎市制記念多摩川花火大会」は、平成29年度はあいにくの雷雨と強風のためやむなく中止としましたので、今年度は比較的天候が安定している秋の開催となりました。



- (1) 主催 川崎市・川崎市観光協会・高津観光協会
- (2) 主管 神奈川新聞社
- (3) 日時 10月13日（土）午後6時から
- (4) 会場 高津区多摩川河川敷（第三京浜道路と二子橋間の河川敷）
- (5) 花火総数 約6,000発

### 2 地区観光協会との連携による観光事業の推進

市内の地区観光協会と連携し、地域発の観光事業を進め、また、地区観光協会が地元のガイド団体と共同して取り組む観光関連事業に対して、適切な支援策を講じ、各地区観光協会との連携・協力の強化を図りました。

(1) 「多摩麻生観光まつり」

市民同士の観光交流を目的として、多摩区観光協会、麻生観光協会が共同して開催している「多摩麻生観光まつり」のバスツアーについて後援し、一部経費の助成を行いました。

(2) 「丸子の渡し」復活運動への参加

丸子の渡し復活協議会の会員として、地元の丸子多摩川観光協会や武蔵中原観光協会とともに、毎年秋に開催される「丸子の渡し祭り」の開催に取り組みました。

第5回丸子の渡し祭り 平成30年10月14日(日)



(3) 市内菊花展、菊花大会に対する支援

川崎区稲毛公園で10月22日(月)から11月12日(月)まで、第66回の「関東川崎菊花大会」に主催者団体として参画し、開催しました。

(出品数 349点)

あわせて、川崎大師観光協会をはじめ地区観光協会が主催者として開催する菊花展や菊花大会についても、支援・協力を行いました。

3 観光関連ガイド団体との連携による観光事業の推進

(1) 川崎市ガイド団体連絡協議会の運営

川崎市ガイド団体連絡協議会の運営事務局として、9月25日(火)に総会を開催し、川崎市の観光政策についての講演、参加団体相互の情報交換などを行い、ガイドのレベル向上や観光ガイド情報の交流機会を提供しました。



(2) ガイド団体活動への支援

市内ガイド団体の概要やガイドルートなどの記事を協会ホームページの観光ガイド団体サイトに掲載し、ガイド活動内容を広くPRすることにより、利用者の利便性を高めるよう努めました。

また、各ガイド団体が主催して行う観光イベントについてもホームページで紹介し、活動を支援しました。

4 観光事業・イベントなどへの後援、協賛

市内の各種団体が市内で開催する観光イベント等に対して、後援や協賛を行い、また、協会の媒体を通じて市内外へのPRを行いました。

また、市内に立地する法人が市内で開催する事業についても、観光情報コーナーでの案内チラシの配架などに協力し、市の内外からの観光客の誘致を図りました。

5 産業観光の推進

川崎産業観光振興協議会(学識経験者、関係企業、団体、行政で構成)と連携し、産業観光の推進に取り組みました。

(1) 産業観光バスツアーや工場夜景クルーズ事業など定期観光ツアーの実施に協力し、また、地元企業の協力をいただき、新規ツアーの開発に取り組みました。

- 定期観光ツアーは、ほとバスバスツアーは52回開催しが延べ1,891人が参加、屋形船クルーズは38回開催し、延べ1,214人が参加
- 産業観光ツアーとして7回開催し、671人の参加
- 工場夜景8周年イベントツアーを5回開催し、522人の参加
- 企業・団体などによるバス、屋形船による工場夜景チャーターツアーを7回開催、252人が参加



(2) 産業観光のPR、他都市との連携を図り、産業観光のマーケットの拡大に努めました。

(3) 産業観光ガイドの養成として3年ぶりに川崎検定合格者を対象に「第7回ガイド養成講座」を開催しました。



(4) 四国、東北、北陸、東海地方の大手旅行代理店46社を訪問し、川崎市への修学旅行用のPRを行った結果、平成31年度の教育旅行受入れにつながりました。(4月149名、5月186名予定)

## II 観光情報の効果的な提供を行う。

### 1 観光情報発信機能の拡充

協会ホームページ「川崎日和り」の適切な運用を図り、外国語観光情報サイト「Discover Kawasaki」(英語・中国語・韓国語)の記事について、インターネットを利用した市内観光情報の発信に努めました。

### 2 情報発信に向けた関連団体等との協力

川崎市、川崎商工会議所、民間関連団体の協力を得て、食事、宿泊、行楽など各種の観光情報について、最新の情報提供に努めました。

### 3 川崎駅北口行政サービス施設「かわさききたテラス」の運営

川崎市内の観光情報等を提供するため、観光案内所の運営を川崎市と共同して実施しました。また、観光案内情報やイベント情報の提供を行う観光情報コーナー、観光情報スポットの運営も行いました。



なお、JR川崎駅北口自由通路に合わせて整備された川崎駅北口行政サービス施設内の観光案内機能とかわさき名産品等の販売機能を備えた観光案内所の設置及び運営について関係者との協議を進め、昨年度から運営を開始しております。

#### (1) 観光案内所

- ・場 所 川崎駅北口行政サービス施設「かわさき きたテラス」内
- ・運営時間 平日：9時から20時まで  
土・日・休日：9時から19時まで
- ・運営体制 常時2名以上（英語・中国語対応可）
- ・運 営 日 原則として年中無休
- ・従 事 者 川崎市との契約による人材派遣会社の派遣職員

(2) 観光情報コーナー

- ・場 所 J R川崎駅東西自由通路内
- ・運営時間 8時から21時まで
- ・運営体制 無人
- ・運 営 日 年中無休



(3) 北部観光情報スポット

- ・場 所 登戸行政サービスコーナー内  
( J R登戸駅改札前)
- ・運営時間 平日：9時から18時まで  
日曜・休日：9時から17時まで  
(登戸行政サービスコーナーの業務時間と同じ)
- ・運営体制 無人
- ・運 営 日 登戸行政サービスコーナーと同じ

4 観光案内所などの外国語対応

外国人観光客に対する観光案内環境の整備について、川崎市による観光案内所の移転に合わせ、英語及び中国語で対応できる従事員（コンシェルジュ）が配置されました。

また、観光案内所や観光情報コーナーに、英語版及び中国語簡体字版の観光ガイドブック「川崎日和り」、英語・中国語・韓国語・タイ語の多言語版の観光パンフレット「Travel Guidebook」を配架するなど、外国語の観光案内情報の提供を行いました。



5 情報誌と連携した広報活動

外部の観光情報誌への掲載によるPRを促進するため、川崎の観光情報や写真の提供を行いました。

6 川崎のお土産品の情報提供

(1) 「かわさき名産品」認定品の普及・宣伝

かわさき名産品認定事業実行委員会（川崎市、川崎商工会議所、川崎市観光協会、関係団体で構成）が認定した「かわさき名産品」の知名度を高め、販路の拡大に結びつくよう、かわさき北テラスでの受託販売、イベント会場での展示販売を行いました。



(2) 地元のお土産品の情報提供

川崎の歴史や産業と結びついた川崎のお土産品について、観光産業の振興に向けて、問い合わせへの優先紹介などを行い、普及・宣伝に努めました。

(3) 川崎大師のお土産情報

年間1千万人を超える参詣客が訪れる川崎大師界限のお土産品についても、若い世代を含めた新しい来街者の増加につながるよう情報提供に努めました。

### III 観光誘客事業を強化する。

#### 1 市外からの観光誘客作戦の展開

東京ビッグサイトで行われた旅行関連の商談会等に出展し、市内ツアーのPR活動を行いました。

また、石川県、静岡県の観光イベント会場で行われた神奈川県の観光キャンペーン事業に参加し、川崎への観光客の誘致に努めました。

また、日本政府観光局が主催する「VISIT JAPAN トラベル MICE マート2018」に川崎市とともに参加し、訪日観光客の誘致に努めました。

(9月20日～22日、東京ビッグサイト)



#### 2 国内・海外都市との観光交流事業の推進

川崎の魅力を発信し、市民の観光交流を促進するため、鳥取県米子市、富山県氷見市、神奈川県秦野市、千葉県いすみ市と、観光情報の提供や観光イベント事業への参加など観光交流を行いました。

また、川崎市との事業連携締結自治体である大田区との観光分野での交流・連携事業を進める「大田区・川崎市観光まちづくり連携事業実行委員会」に参加し、両地域の観光スポットを巡るツアーの共同実施や観光関連商品の普及宣伝などの協力を行いました。

#### 3 第62回川崎市観光写真コンクールの開催

「観光のまち・かわさき」の宣伝素材として活用するため、公募による観光写真コンクールを川崎市から受託し、実施しました。

また、コンクールの広報を兼ねて、平成29年度の受賞作品の巡回展示を行いました。

##### ・作品募集期間

平成30年11月～31年1月の3か月間

##### ・作品巡回展示

6月(東海道かわさき宿交流館)、  
11月(かわさき市民祭り会場)の2回



#### 4 「東海道かわさき宿交流館」の指定管理業務

第2期指定管理として引き続き交流館館長に加え副館長も当協会から派遣すると共に同館の自主事業の企画・実施も行い、館内物販コーナーの商品管理等の業務は交流館に移管するなど、業務分担等の見直しも行いました。

#### 5 伝統的な日本文化振興への取組み

- (1) 第43回「川崎大師薪能」については、主催者として同実行委員会に参加して、5月22日(火)川崎大師平間寺境内特設舞台で開催しました。来場された約530人の方がたが、篝火に浮かぶ能の舞台を堪能



されました。

(2)「きもの・で・街歩き」など、日本の伝統文化の継承・発展に結びつくよう努めました。

## 6 外国人観光客の誘致

訪日外国人観光客の誘致について、川崎市や市内の経済団体等により「川崎インバウンド等誘客推進協議会」が発足し、当協会は川崎港振興協会とともに事務局を担っております。来年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、川崎港へのクルーズ船（ホテルシップ）の誘致や、内外からの観戦者の川崎市内への受入れ等を官民の協働により検討、実施することとしています。

## IV 適正な法人運営に努める。

### 1 事務事業の再構築と財政基盤の強化

#### (1) 事務事業の見直し

観光人材の育成、観光資源の発掘、産業観光の商品化等の観光課題、訪日観光客に対応する基盤整備など条件整備について検討を進めました。

#### (2) 自主財源の拡充

前年度に比べ、広告料、産業観光等の企画監修料など自主財源は若干増収とはなっているものの、全体としては減収していることから新たな財源が課題となりました。

#### (3) 会員の加入促進

協会ホームページバナー広告の割引などとともに、法人会員が実施するイベント事業への協賛、問い合わせに対する優先紹介を行うなどの会員サービスを行い、会員数の増加に努めました。

### 2 法人会議の開催

#### (1) 社員総会の開催

6月19日（火）に東海道かわさき宿交流館において定時社員総会を開催し、平成29年度の事業及び決算報告等について審議いただき、承認をいただきました。

また、3月26日（火）に東海道かわさき宿交流館において、平成31年度の事業計画及び予算について、臨時社員総会を開催し、審議いただき、承認していただきました。



#### (2) 理事会の開催

6月5日（火）、3月7日（木）に理事会を開催し、社員総会の開催に向けて、提出議案等の審議、決議等を行いました。

#### (3) 監事監査への協力

4月26日（木）に川崎市産業振興会館において、両監事による平成29年度の事業内容及び会計に関する監査を行っていただき、いずれも適正であるとの報告をいただきました。

### 3 大都市観光協会連絡協議会への参加等

東京都及び政令指定都市の観光協会やコンベンション協会等の法人で構成する「大都市観光協会連絡協議会」に引き続き参加し、観光課題への対応や協会の組織運営などについて当協会の事務局運営に反映するよう努めました。

また、公益財団法人日本観光振興協会から観光事例や観光情報を収集し、協会事業の立案等への活用に努めました。

# 正味財産増減計算書

平成30年04月01日から平成31年03月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益			
特定資産受取利息	99	50	49
特定資産運用益計	99	50	49
受取会費			
正会員受取会費	1,018,000	1,007,000	11,000
受取会費計	1,018,000	1,007,000	11,000
事業収益			
観光写真コンクール受託収益	677,000	704,000	▲27,000
外国語観光情報発信・案内受託収益	895,383	842,722	52,661
観光パンフレット等作成受託収益	6,604,461	5,606,358	998,103
広告料収益	109,000	108,000	1,000
観光案内所運営受託収益	0	3,718,487	▲3,718,487
産業観光企画監修等収益	3,676,698	2,850,668	826,030
事業収益計	11,962,542	13,830,235	▲1,867,693
受取補助金等			
受取地方公共団体補助金	19,222,000	19,222,000	0
受取補助金等計	19,222,000	19,222,000	0
受取負担金			
受取負担金	93,562,744	86,610,369	6,952,375
受取負担金計	93,562,744	86,610,369	6,952,375
受取寄付金			
受取寄付金	14,759,676	9,815,000	4,944,676
受取寄付金計	14,759,676	9,815,000	4,944,676
雑収益			
受取利息	382	547	▲165
雑収益	1,527,964	1,935,241	▲407,277
雑収益計	1,528,346	1,935,788	▲407,442
経常収益計	142,053,407	132,420,442	9,632,965
(2) 経常費用			
事業費			
給与手当	7,372,405	6,365,411	1,006,994
臨時雇賃金	915,643	349,000	566,643
福利厚生費	986,399	186,876	799,523
旅費交通費	412,114	442,938	▲30,824
通信運搬費	326,794	338,416	▲11,622
消耗什器備品費	0	252,936	▲252,936
消耗品費	127,364	53,061	74,303
印刷製本費	123,390	82,080	41,310
光熱水料費	55,487	52,916	2,571
賃借料	192,038	875,574	▲683,536
交際費	8,306	7,201	1,105
会議費	33,600	89,506	▲55,906
保険料	1,576,290	1,873,320	▲297,030
諸謝金	203,500	339,500	▲136,000
租税公課	85,814	122,607	▲36,793
図書費	0	3,740	▲3,740
支払手数料	36,936	41,742	▲4,806
支払負担金	405,600	1,676,351	▲1,270,751
支払助成金	1,605,979	1,525,945	80,034
支払寄附金	190,000	390,000	▲200,000
委託費	105,518,651	107,052,780	▲1,534,129
雑費	729,246	877,313	▲148,067
事業費計	120,905,556	122,999,213	▲2,093,657



## 正味財産増減計算書

平成30年04月01日から平成31年03月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
管理費			
役員報酬	6,413,000	6,447,000	▲34,000
給与手当	8,542,319	3,179,828	5,362,491
臨時雇賃金	630,357	1,269,760	▲639,403
福利厚生費	1,025,269	462,926	562,343
旅費交通費	658,382	400,124	258,258
通信運搬費	514,476	525,866	▲11,390
消耗什器備品費	134,676	0	134,676
消耗品費	347,336	440,531	▲93,195
印刷製本費	232,956	232,956	0
光熱水料費	53,964	53,027	937
賃借料	2,065,652	2,147,909	▲82,257
交際費	583,960	810,964	▲227,004
会議費	118,695	282,119	▲163,424
租税公課	302,705	240,794	61,911
図書費	44,668	44,468	200
支協会費	238,000	238,000	0
支払手数料	137,327	127,593	9,734
委託費	573,102	516,240	56,862
雑費	332,466	473,432	▲140,966
管理費計	22,949,310	17,893,537	5,055,773
経常費用計	143,854,866	140,892,750	2,962,116
評価損益等調整前当期経常増減額	▲1,801,459	▲8,472,308	6,670,849
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	▲1,801,459	▲8,472,308	6,670,849
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
興行中止保険保険金			
興行中止保険保険金	0	15,017,019	▲15,017,019
興行中止保険保険金計	0	15,017,019	▲15,017,019
経常外収益計	0	15,017,019	▲15,017,019
(2) 経常外費用			
花火大会協賛金返還金			
花火大会協賛金返還金	0	3,692,500	▲3,692,500
花火大会協賛金返還振込手数料	0	26,892	▲26,892
花火大会協賛金返還金計	0	3,719,392	▲3,719,392
経常外費用計	0	3,719,392	▲3,719,392
当期経常外増減額	0	11,297,627	▲11,297,627
税引前当期一般正味財産増減額	▲1,801,459	2,825,319	▲4,626,778
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	▲1,871,459	2,755,319	▲4,626,778
一般正味財産期首残高	11,146,317	8,390,998	2,755,319
一般正味財産期末残高	9,274,858	11,146,317	▲1,871,459
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	9,274,858	11,146,317	▲1,871,459